

## フルミスト点鼻液について

2023年3月27日、日本では初となる鼻に噴霧するインフルエンザワクチン、フルミスト点鼻液が製造販売承認され、2024年10月から多くの医療機関で使用され始めています。当院ではまだ使用されていない現状ですが、今回は、このフルミスト点鼻液の特徴についてまとめました。

表1.フルミストとHAワクチンの比較

	フルミスト点鼻液 (経鼻弱毒生インフルエンザワクチン)	「ヒゲンHA」 (インフルエンザHAワクチン)
ワクチン名		
投与方法	点鼻	皮下注射
対象者	2歳以上19歳未満	生後6ヶ月以上
ワクチンの種類	弱毒生ワクチン	不活化ワクチン (成分：ヘマグルチニン)
用法用量	各鼻腔内に0.1mLを1噴霧	6ヶ月～3歳未満：1回0.25mL (2回) ※1 3歳～13歳未満：1回0.5mL (2回) ※1 13歳上：1回0.5mL (1または2回) ※2
主な副反応	一時的な 鼻水や鼻詰まり、咽頭痛	一時的な 接種箇所の腫脹や発赤
接種費用	取り扱い施設にもよるが 1回8000円前後	取り扱い施設にもよるが 1回3500円前後

※1 およそ2～4週間の間隔で投与

※2 およそ1～4週間の間隔で投与

# フルミスト点鼻液の特徴

**特徴1：鼻へ噴霧するタイプのインフルエンザワクチンです。**

→フルミスト点鼻液は、その名の通り鼻に噴霧するワクチンであるため、体に針を刺す必要がありません。そのため、注射が苦手な方や注射部位が腫れやすい方にとって非常に有効なワクチンといえます。しかし、鼻に噴霧するため、一時的に鼻詰まりや鼻水がでるといった症状が50%程度の頻度で出現するといわれています。

**特徴2：1回の接種で効果を発揮します。**

→フルミスト点鼻液は、各鼻腔内に0.1mlを1噴霧するだけで、効果が約1年間持続すると言われていています。HAワクチンのように2回の接種を必要としないため、接種を受ける方の負担も軽減されます。

**特徴3：接種対象者は、2歳以上19歳未満の方に限られます。**

→2024年10月時点では、接種対象者に年齢制限があります。

**特徴4：別の種類ワクチンと同時に投与することも可能です。**

→本来、2種類の弱毒生ワクチンを接種する際は、間隔を27日以上空けることが推奨されています。しかし、フルミスト点鼻液は弱毒生ワクチンですが、点鼻接種ということもあり、他のワクチンとの接種間隔に制限がありません。そのため、医師が必要と認めた場合は、他のワクチンと同時に接種することも可能です。

## フルミスト点鼻液の接種不相当者

- ・ 明らかな発熱を呈している方（37.5℃以上の発熱）
- ・ 重い急性疾患にかかっていることが明らかな方
- ・ フルミストの成分でアナフィラキシーを起こしたことがある方
- ・ 明らかに免疫機能に異常のある疾患をお持ちの方
- ・ 経口・注射の免疫抑制薬（副腎皮質ホルモンなど）を使用中的の方。
- ・ 妊娠していることが明らかな方
- ・ その他、医師が予防接種を受けることを不相当とした方。



## 最後に

インフルエンザワクチンの目的は、ウイルスに感染しても発症を抑えること、そして、発症しても重症化させないことにあります。そのため、インフルエンザワクチンは、ウイルスからの感染を防ぐことを目的としていません。感染予防には、こまめな手洗いや手指消毒が重要ですので、日頃から積極的に心がけていきましょう。

また、当院はオセルタミビルやイナビル、リレンザなど複数の抗インフルエンザ薬を採用しております。薬剤に関してご不明な点がございましたら、当院薬剤部までお問い合わせください。

### 【参考資料】

フルミスト点鼻液 添付文書・インタビューフォーム  
ヒゲンHA 添付文書・インタビューフォーム

薬剤部 白井